

「日米貿易協定による北海道への影響について」 農畜産物の生産額への影響 データ諸元(日米貿易協定)

項目		単位	小麦		砂糖			
			データ	データの諸元	データ	データの諸元		
価格	競合するもの	道産品価格	①	円/kg	56	道産小麦の上場全銘柄平均落札価格(税込) <2018年産> 【全国小麦改良協会】		
		国境措置変更後の道産品価格(上限値)	②	円/kg	52	マークアップの引下げにより、外国産麦の販売価格が低下することに伴い、道内産麦価格も低下(約4.1円/kg)する。 (米国産小麦のマークアップの引下げ(7.8円/kg)分の全輸入量における米国産小麦の割合分(52.1%)だけ、道産麦価格が下落(4.1円/kg)すると想定。)		
		国境措置変更後の道産品価格(下限値)	③	円/kg	52	マークアップの引下げにより、外国産麦の販売価格が低下することに伴い、道内産麦価格も低下(約4.1円/kg)する。 (米国産小麦のマークアップの引下げ(7.8円/kg)分の全輸入量における米国産小麦の割合分(52.1%)だけ、道産麦価格が下落(4.1円/kg)すると想定。)		
		輸入品価格	④	円/kg			61	ロンドン白糖価格(諸掛(フレート、保険料、引き取り経費)加算) <2013~2017砂糖年度5中3平均> 【英国ロンドン市場公表データ】
	競合しないもの	道産品価格	⑤	円/kg			202	精製糖の市中相場価格 <2013~2017砂糖年度5中3平均> 【日本経済新聞】
		国境措置変更後の道産品価格(上限値)	⑥	円/kg				
		国境措置変更後の道産品価格(下限値)	⑦	円/kg				
道産品生産量	競合するもの		⑧	千トン	539	道産小麦生産量 <2017~2018年産平均> 【農水省・作物統計】		
	競合しないもの	価格が低下すると見込むもの	⑨	千トン				
		国境措置変更後も価格が低下しないと見込むもの	⑩	千トン			614	国内産糖のうちてん菜糖の生産量(精糖換算)<2018砂糖年度> 【農水省・砂糖及び異性化糖の需給見通し】
生産減少額(最小値)		百万円	2,211		$(①-②) \times ⑧ + (⑤-⑥) \times ⑨$	0	$(①-②) \times ⑧ + (⑤-⑥) \times ⑨$	
生産減少額(最大値)		百万円	2,211		$(①-③) \times ⑧ + (⑤-⑦) \times ⑨$	0	$(①-③) \times ⑧ + (⑤-⑦) \times ⑨$	

「日米貿易協定による北海道への影響について」 農畜産物の生産額への影響 データ諸元(日米貿易協定)

項目		単位	でん粉		小豆		いんげん			
			データ	データの諸元	データ	データの諸元	データ	データの諸元		
価格	競合するもの	道産品価格	①	円/kg	131	片栗粉用等の国産ばれいしよでん粉価格 <2013～2017でん粉年度5中3平均> 【農水省推計】				
		国境措置変更後の道産品価格(上限値)	②	円/kg	130	国産品価格(131円/kg)－関税削減による価格低下(1円/kg)				
		国境措置変更後の道産品価格(下限値)	③	円/kg	130	国産品価格(131円/kg)－関税削減による価格低下(1円/kg)				
		輸入品価格	④	円/kg	81	米国産ばれいしよでん粉の価格(65円/kg)<2009年CIF価格>+現行関税(25%)分(16円/kg) 【財務省・貿易統計】	154	輸入小豆のCIF価格 <2014～2018年5中3平均> 【財務省・貿易統計】	144	輸入いんげんのCIF価格 <2014～2018年5中3平均> 【財務省・貿易統計】
	競合しないもの	道産品価格	⑤	円/kg			322	小豆の年平均価格 <2014～2018年5中3平均> 【農水省・農作物価統計】	246	大手亡の年平均価格 <2014～2018年5中3平均> 【農水省・農作物価統計】
		国境措置変更後の道産品価格(上限値)	⑥	円/kg						
		国境措置変更後の道産品価格(下限値)	⑦	円/kg						
道産品生産量	競合するもの		⑧	千トン	74	制度対象外(片栗粉用等)の国産ばれいしよでん粉生産量 <2017年産> 【農水省・でん粉の需給見通し】				
	競合しないもの	価格が低下すると見込むもの	⑨	千トン						
		国境措置変更後も価格が低下しないと見込むもの	⑩	千トン	104	制度対象(糖化製品等)の国産ばれいしよでん粉生産量 <2017年産> 【農水省・でん粉の需給見通し】	39	道内生産量 <2018年産> 【農水省・作物統計】	9	道内生産量 <2018年産> 【農水省・作物統計】
生産減少額(最小値)		百万円	52	$(①-②) \times ⑧ + (⑤-⑥) \times ⑨$	0	$(①-②) \times ⑧ + (⑤-⑥) \times ⑨$	0	$(①-②) \times ⑧ + (⑤-⑥) \times ⑨$		
生産減少額(最大値)		百万円	52	$(①-③) \times ⑧ + (⑤-⑦) \times ⑨$	0	$(①-③) \times ⑧ + (⑤-⑦) \times ⑨$	0	$(①-③) \times ⑧ + (⑤-⑦) \times ⑨$		

「日米貿易協定による北海道への影響について」 農畜産物の生産額への影響 データ諸元(日米貿易協定)

項目			単位	加工用トマト(トマトケチャップ・ソース)		加工用トマト(トマトジュース)		りんご(果汁)		
				データ	データの諸元	データ	データの諸元	データ	データの諸元	
価格	競合するもの	道産品価格	①	円/kg				521	道内産りんごジュース販売価格 <2018年産りんごの道内主要加工場の平均販売価格> 【農産振興課調べ】	
		国境措置変更後の道産品価格(上限値)	②	円/kg				506	道産りんごジュース販売価格(521円/kg)－関税削減相当分(29円/kg)/2	
		国境措置変更後の道産品価格(下限値)	③	円/kg				492	道産りんごジュース販売価格(521円/kg)－関税削減相当分(29円/kg)	
		輸入品価格	④	円/kg				153	りんご果汁CIF価格(世界総計) <2014～2018年平均> 【財務省・貿易統計】	
	競合しないもの	道産品価格	⑤	円/kg	215	トマトケチャップ・ソース価格 <2014～2018年度5中3平均> 【農水省調べ(業界聞き取り)】	170	トマトジュース価格 <2014～2018年度5中3平均> 【農水省調べ(業界聞き取り)】		
		国境措置変更後の道産品価格(上限値)	⑥	円/kg						
		国境措置変更後の道産品価格(下限値)	⑦	円/kg						
道産品生産量	競合するもの		⑧	千トン				0.4	りんご果汁の道内産生産量 <2018年産> 【農産振興課調べ】	
	競合しないもの	価格が低下すると見込むもの	⑨	千トン						
		国境措置変更後も価格が低下しないと見込むもの	⑩	千トン	0	トマトケチャップの道内産生産量 <2018年産> 【農産振興課調べ】	1	トマトジュースの道内産生産量 <2018年産> 【農産振興課調べ】		
生産減少額(最小値)				百万円	0	$(①-②) \times ⑧ + (⑤-⑥) \times ⑨$	0	$(①-②) \times ⑧ + (⑤-⑥) \times ⑨$	6	$(①-②) \times ⑧ + (⑤-⑥) \times ⑨$
生産減少額(最大値)				百万円	0	$(①-③) \times ⑧ + (⑤-⑦) \times ⑨$	0	$(①-③) \times ⑧ + (⑤-⑦) \times ⑨$	11	$(①-③) \times ⑧ + (⑤-⑦) \times ⑨$

「日米貿易協定による北海道への影響について」 農畜産物の生産額への影響 データ諸元(日米貿易協定)

項目		単位	りんご(生果)		(参考試算)たまねぎ			
			データ	データの諸元	データ	データの諸元		
価格	競合するもの	道産品価格	①	円/kg			64	加工・業務用向けたまねぎ価格 <2018年産> 【農産振興課調べ】
		国境措置変更後の道産品価格(上限値)	②	円/kg			64	生産性向上等の体質強化対策により、関税削減相当分の1/2の価格低下 道産品価格(64円/kg)－関税削減相当分(4.8円/kg)×米国産シェア(4.9%)÷2
		国境措置変更後の道産品価格(下限値)	③	円/kg			64	道産品価格(64円/kg)－関税削減相当分(4.8円/kg)×米国産シェア(4.9%)
		輸入品価格	④	円/kg			57	米国産CIF価格 <2014～2018年度の5中3平均> 【財務省・貿易統計】
	競合しないもの	道産品価格	⑤	円/kg	197	りんご生果価格 <2014～2018年平均> 【札幌市中央卸売市場統計】	75	生食向けたまねぎ価格 <2017年産> 【農産振興課算出(農業産出額、用途別出荷量、加工・業務用向け価格より)】
		国境措置変更後の道産品価格(上限値)	⑥	円/kg				
国境措置変更後の道産品価格(下限値)		⑦	円/kg					
道産品生産量	競合するもの		⑧	千トン			155	加工・業務用向け出荷量 <2017年産> 【農水省・野菜生産出荷統計】
	競合しないもの	価格が低下すると見込むもの	⑨	千トン				
		国境措置変更後も価格が低下しないと見込むもの	⑩	千トン	7	りんご生果の生産量 北海道7,120トン <2018年産> 【農水省・果樹生産出荷統計】	642	生産量(797,200トン)－加工・業務用向け出荷量(155,300トン)＝641,900トン <2017年産> 【農水省・野菜生産出荷統計】
生産減少額(最小値)		百万円	0		$(①-②) \times ⑧ + (⑤-⑥) \times ⑨$	18	$(①-②) \times ⑧ + (⑤-⑥) \times ⑨$	
生産減少額(最大値)		百万円	0		$(①-③) \times ⑧ + (⑤-⑦) \times ⑨$	37	$(①-③) \times ⑧ + (⑤-⑦) \times ⑨$	

「日米貿易協定による北海道への影響について」 農畜産物の生産額への影響 データ諸元(日米貿易協定)

項目			単位	牛肉		豚肉		
				データ	データの諸元	データ	データの諸元	
価格	競合するもの	道産品価格	①	円/kg	1,057	中央市場枝肉卸売価格(肉質等級1等級、及び2等級(和牛、交雑牛を除く)の平均、部分肉換算価格(÷0.7)) <2016~2018年度> 【農水省・畜産物流通統計】	723	中央市場枝肉卸売価格全規格平均(部分肉換算価格(÷0.7)) <2014~2018年度5中3平均> 【農水省・畜産物流通統計】
		国境措置変更後の道産品価格(上限値)	②	円/kg	965	国産品価格(1,057円/kg)－関税削減相当額(185円/kg)/2	704	国産品価格(723円/kg)－輸入豚肉の価格低下額(38円/kg=524円/kg×104.3%-508.8円/kg)/2
		国境措置変更後の道産品価格(下限値)	③	円/kg	872	国産品価格(1,057円/kg)－関税削減相当額分(185円/kg)	685	国産品価格(723円/kg)－輸入豚肉の価格低下額(38円/kg=524円/kg×104.3%-508.8円/kg)
		輸入品価格	④	円/kg	686	米国産CIF価格＋関税9% <2016~2018年度平均> 【財務省・貿易統計】	509	9割は分岐点価格で輸入(=524円/kg)、1割は従量税で輸入(=米国内豚肉卸売価格(カットアウトバリュウ、部分肉換算価格(÷0.7))＋輸送費等＋従量税50円/kg)すると見込み、その加重平均 <2014~2018年5中3平均> 【USDA・Livestock, Dairy and Poultry Outlook】
	競合しないもの	道産品価格	⑤	円/kg	3,091	中央市場枝肉卸売価格(肉質等級3~5等級及び2等級(和牛、交雑牛)の平均、部分肉換算価格(÷0.7)) <2016~2018年度> 【農水省・畜産物流通統計】	776	東京・大阪市場で極上及び上に格付された国産豚枝肉の卸売価格(部分肉換算価格(÷0.7)) <2014~2018年5中3平均> 【農水省・畜産物流通統計】
		国境措置変更後の道産品価格(上限値)	⑥	円/kg	3,026	(競合するものの価格低下率の1/2)×(米国産冷蔵牛肉輸入量[134千トン]÷世界全体からの冷蔵牛肉輸入量[279千トン])の割合で国産品価格(3,091円/kg)が下落	771	(競合するものの価格低下率の1/2)×(米国産冷蔵豚肉輸入量207千トン÷世界全体からの冷蔵豚肉輸入量405千トン)の割合で国産品価格(776円/kg)が下落
		国境措置変更後の道産品価格(下限値)	⑦	円/kg	2,961	競合するものの価格低下率の1/2の価格低下 × (134÷279) ((①-③)/①)×1/2×(134÷279)=4.2% ⑤-⑤×4.2%=2,961	765	競合するものの価格低下率の1/2に満たない割合で価格低下 (①-③)/①×1/2未満=1.3% ⑤-⑤×1.3%=765
道産品生産量	競合するもの		⑧	千トン	41	道内産総生産量=道内産牛枝肉生産量(91千トン)×部分肉換算率(70%)=64千トン ⑧競合するもの=64千トン×道内格付割合(64.0%(肉質等級1等級及び2等級(和牛、交雑牛を除く)))=41千トン ⑨競合しないもの=64千トン×道内格付割合(36.0%(肉質等級3~5等級及び2等級(和牛、交雑牛)))=23千トン <2016~2018年度平均> 【道内産牛枝肉生産量:農水省・畜産物流通統計】 【道内格付割合:(社)日本食肉格付協会「牛枝肉格付結果」】	31	道内産総生産量=国内産総生産量(897千トン)×豚枝肉生産量の北海道シェア(7.0%)=63千トン ⑧競合するもの=63千トン×(1-銘柄豚肉の割合(50.3%))=31.31千トン ⑨競合しないもの=63千トン×(銘柄豚肉の割合(50.3%))=31.69千トン <2018年度> 【国内産総生産量:農水省・畜産物流通統計】 【豚枝肉生産量の北海道シェア:農水省・畜産物流通統計より算定】 【割合:農水省試算(業界紙調べ、業界聞き取り)】
	競合しないもの	価格が低下すると見込むもの	⑨	千トン	23		32	
		国境措置変更後も価格が低下しないと見込むもの	⑩	千トン	0		0	
生産減少額(最小値)				百万円	5,266	(①-②)×⑧+(⑤-⑥)×⑨	755	(①-②)×⑧+(⑤-⑥)×⑨
生産減少額(最大値)				百万円	10,573	(①-③)×⑧+(⑤-⑦)×⑨	1,517	(①-③)×⑧+(⑤-⑦)×⑨

「日米貿易協定による北海道への影響について」 農畜産物の生産額への影響 データ諸元(日米貿易協定)

項目		単位	鶏肉		鶏卵			
			データ	データの諸元	データ	データの諸元		
価格	競合するもの	道産品価格	①	円/kg	503	もも・むね平均卸売価格(東京) <2014~2018年5中3平均> 【農水省・食鳥市況情報(東京)】	224	全農東京M卵卸売価格 <2014~2018年度5中3平均>【JA全農たまご(株)】
		国境措置変更後の道産品価格(上限値)	②	円/kg	489	国産品価格(503円/kg)－関税削減相当分(28円/kg)/2	214	国産品価格(224円/kg)－関税削減相当分(21円/kg)/2
		国境措置変更後の道産品価格(下限値)	③	円/kg	475	国産品価格(503円/kg)－関税削減相当分(28円/kg)	203	国産品価格(224円/kg)－関税削減相当分(21円/kg)
		輸入品価格	④	円/kg	235	米国産CIF価格(HS0207.11~14のうち関税撤廃の除外となったものを除く) <2014~2018年5中3平均> 【財務省・貿易統計】	160	世界総計CIF価格(殻付換算)(関税の除外となったものを除く) <2014~2018年度5中3平均>【財務省・貿易統計】
	競合しないもの	道産品価格	⑤	円/kg	503	もも・むね平均卸売価格(東京) <2014~2018年5中3平均> 【農水省・食鳥市況情報(東京)】	224	全農東京M卵卸売価格 <2014~2018年度5中3平均>【JA全農たまご(株)】
		国境措置変更後の道産品価格(上限値)	⑥	円/kg	-		-	
		国境措置変更後の道産品価格(下限値)	⑦	円/kg	-		-	
道産品生産量	競合するもの		⑧	千トン	6	道内産生産量=国内産総生産量(部分肉)(1,136千トン)×部分肉生産量の北海道シェア(5.42%)=61.6千トン 61.6千トン×業務・加工用(冷凍)のうち廉価品(10%)=6.2千トン <2018年度> 【国内産総生産量:農水省・食料需給表から推計】 【割合:農水省調べ(業界聞き取り)】	9	道内産生産量=国内産総生産量(2,628千トン)×北海道シェア(3.93%)=103.3トン 103.3トン×業務・加工用のうち加工卵の使用が見込まれるものの1/2(8.75%)=9.0トン <2018年度> 【国内産総生産量:農水省・食料需給表から推計】 【割合:農水省調べ(業界聞き取り)】
	競合しないもの	価格が低下すると見込むもの	⑨	千トン	-		-	
		国境措置変更後も価格が低下しないと見込むもの	⑩	千トン	55	道内産生産量=国内産総生産量(部分肉)(1,136千トン)×部分肉生産量の北海道シェア(5.42%)=61.6千トン 61.6千トン×(家計消費(50%)＋業務・加工用のうち上記以外のもの(40%)) <2018年度> 【国内産総生産量:農水省・食料需給表から推計】 【割合:農水省調べ(業界聞き取り)】	94	道内産生産量=国内産総生産量(2,628千トン)×北海道シェア(3.93%)=103.3トン 103.3トン×(家計消費(50%)＋業務・加工用のうち上記以外のもの(41.25%))=94.26トン <2018年度> 【国内産総生産量:農水省・食料需給表から推計】 【割合:農水省調べ(業界聞き取り)】
生産減少額(最小値)		百万円	87	(①-②)×⑧+(⑤-⑥)×⑩		95	(①-②)×⑧+(⑤-⑥)×⑩	
生産減少額(最大値)		百万円	174	(①-③)×⑧+(⑤-⑦)×⑩		189	(①-③)×⑧+(⑤-⑦)×⑩	

「日米貿易協定による北海道への影響について」 農畜産物の生産額への影響 データ諸元(日米貿易協定)

項目			単位	牛乳乳製品(チーズ(抱合せ対象チェダー・ゴータ等))		牛乳乳製品(チーズ(抱合せ対象以外のチェダー・ゴータ等))		牛乳乳製品(チーズ(チェダー・ゴータ等以外))			
				データ	データの諸元	データ	データの諸元	データ	データの諸元		
価格	競合するもの	道産品価格	①	円/kg	73	チーズ向け生乳取引価格 <2014~2018年5中3平均> 【農水省調べ】	73	チーズ向け生乳取引価格 <2014~2018年5中3平均> 【農水省調べ】			
		国境措置変更後の道産品価格(上限値)	②	円/kg	38	米国由来チーズCIF価格(生乳換算価格)と同額	67	国産品価格(73円)－関税削減相当分(11円)の1/2=67円			
		国境措置変更後の道産品価格(下限値)	③	円/kg	38	米国由来チーズCIF価格(生乳換算価格)と同額	62	国産品価格(73円)－関税削減相当分(11円)=62円			
		輸入品価格	④	円/kg	38	米国由来チーズCIF価格(生乳換算価格) <2014~2018年5中3平均> 【財務省・貿易統計】	38	米国由来チーズCIF価格(生乳換算価格) <2014~2018年5中3平均> 【財務省・貿易統計】	38	米国由来チーズCIF価格(生乳換算価格) <2014~2018年5中3平均> 【財務省・貿易統計】	
	競合しないもの	道産品価格	⑤	円/kg					73	チーズ向け生乳取引価格(全国) <2014~2018年5中3平均> 【農水省調べ】	
		国境措置変更後の道産品価格(上限値)	⑥	円/kg							
		国境措置変更後の道産品価格(下限値)	⑦	円/kg							
	道産品生産量	競合するもの		⑧	千トン	214	チーズ向け生乳処理量(北海道417千トン)×抱合せ対象チェダー・ゴータ等のシェア(51.2%)=212千トン <2018年度> 【農水省・牛乳乳製品統計、北海道調べ】	84	チーズ向け生乳処理量(北海道417千トン)×抱合せ対象以外のチェダー・ゴータ等のシェア(20.1%)=84千トン <2018年度> 【農水省・牛乳乳製品統計、北海道調べ】		
		競合しないもの	価格が低下すると見込むもの	⑨	千トン						
国境措置変更後も価格が低下しないと見込むもの			⑩	千トン					120	チーズ向け生乳処理量(北海道417千トン)×チェダー・ゴータ以外のシェア(28.7%)=85千トン <2018年度> 【農水省・牛乳乳製品統計、北海道調べ】	
生産減少額(最小値)				百万円	7,473	(①-②)×⑧+(⑤-⑥)×⑨	478	(①-②)×⑧+(⑤-⑥)×⑨	0	(①-②)×⑧+(⑤-⑥)×⑨	
生産減少額(最大値)				百万円	7,473	(①-③)×⑧+(⑤-⑦)×⑨	947	(①-③)×⑧+(⑤-⑦)×⑨	0	(①-③)×⑧+(⑤-⑦)×⑨	

「日米貿易協定による北海道への影響について」 農畜産物の生産額への影響 データ諸元(日米貿易協定)

項目		単位	牛乳乳製品(バター・脱脂粉乳等)		牛乳乳製品(生クリーム等)			
			データ	データの諸元	データ	データの諸元		
価格	競合するもの	道産品価格	①	円/kg	81	バター・脱脂粉乳等向け生乳取引価格 <2014～2018年5中3平均> 【農水省調べ】		
		国境措置変更後の道産品価格(上限値)	②	円/kg	77	バター・脱脂粉乳等向け生乳取引価格: 国産品価格(81円/kg)-{(国産品価格【81円/kg】-米国由来ホエイ(チーズ)CIF価格(生乳換算価格) 【38円/kg】×(輸入ホエイと競合する道産脱脂粉乳向け生乳量【217千トン】÷脱脂粉乳・バター等向け 生乳処理量(北海道)【1,278千トン】)の1/2【4円/kg】} ※輸入ホエイと競合する道産脱脂粉乳向け生乳量【217千トン】=バター・脱脂粉乳等向け生乳処理量 (北海道)【1,278千トン】×輸入ホエイと競合する国産脱脂粉乳向け生乳割合【17.0%】 <2014～2018 年5中3平均>		
		国境措置変更後の道産品価格(下限値)	③	円/kg	74	国産品価格(81円/kg)-{(国産品価格【81円/kg】-米国由来ホエイ(チーズ)CIF価格(生乳換算価格) 【38円/kg】×(輸入ホエイと競合する道産脱脂粉乳向け生乳量【217千トン】÷脱脂粉乳・バター等向け 生乳処理量(北海道)【1,278千トン】)【7円/kg】}		
		輸入品価格	④	円/kg				
	競合しないもの	道産品価格	⑤	円/kg			90	生クリーム・脱脂濃縮乳等向け生乳取引価格 <2014～2018年度5中3平均> 【農水省調べ】
		国境措置変更後の道産品価格(上限値)	⑥	円/kg			88	生クリーム等向け生乳取引価格: 国産品価格【90円/kg】- [国産脱脂粉乳の価格下落幅の1/2【21円/kg(42円/kgの1/2)】×(輸入ホエイ の影響を受ける道産脱脂粉乳向け生乳量と同量【217千トン】÷生クリーム・脱脂濃縮乳等向け生乳 処理量(北海道)【1,232千トン】)の1/2【2円/kg】}
		国境措置変更後の道産品価格(下限値)	⑦	円/kg			86	生クリーム等向け生乳取引価格: 国産品価格【90円/kg】- [国産脱脂粉乳の価格下落幅の1/2【21円/kg(42円/kgの1/2)】×(輸入ホエイ の影響を受ける道産脱脂粉乳向け生乳量と同量【217千トン】÷生クリーム・脱脂濃縮乳等向け生乳 処理量【1,232千トン】)【4円/kg】}
道産品生産量	競合するもの		⑧	千トン	1,278	バター・脱脂粉乳等向け生乳処理量(北海道) <2018年度> 【農水省・牛乳乳製品統計、北海道調べ】		
	競合しないもの	価格が低下すると見込むもの	⑨	千トン			1,232	生クリーム・脱脂濃縮乳等向け生乳処理量(北海道) <2018年度> 【農水省・牛乳乳製品統計、北海道調べ】
		国境措置変更後も価格が低下しないと見込むもの	⑩	千トン				
生産減少額(最小値)		百万円	4,665	(①-②)×⑧+(⑤-⑥)×⑨		2,279	(①-②)×⑧+(⑤-⑥)×⑨	
生産減少額(最大値)		百万円	9,329	(①-③)×⑧+(⑤-⑦)×⑨		4,558	(①-③)×⑧+(⑤-⑦)×⑨	